



診療看護師（NP）として活躍する修了生

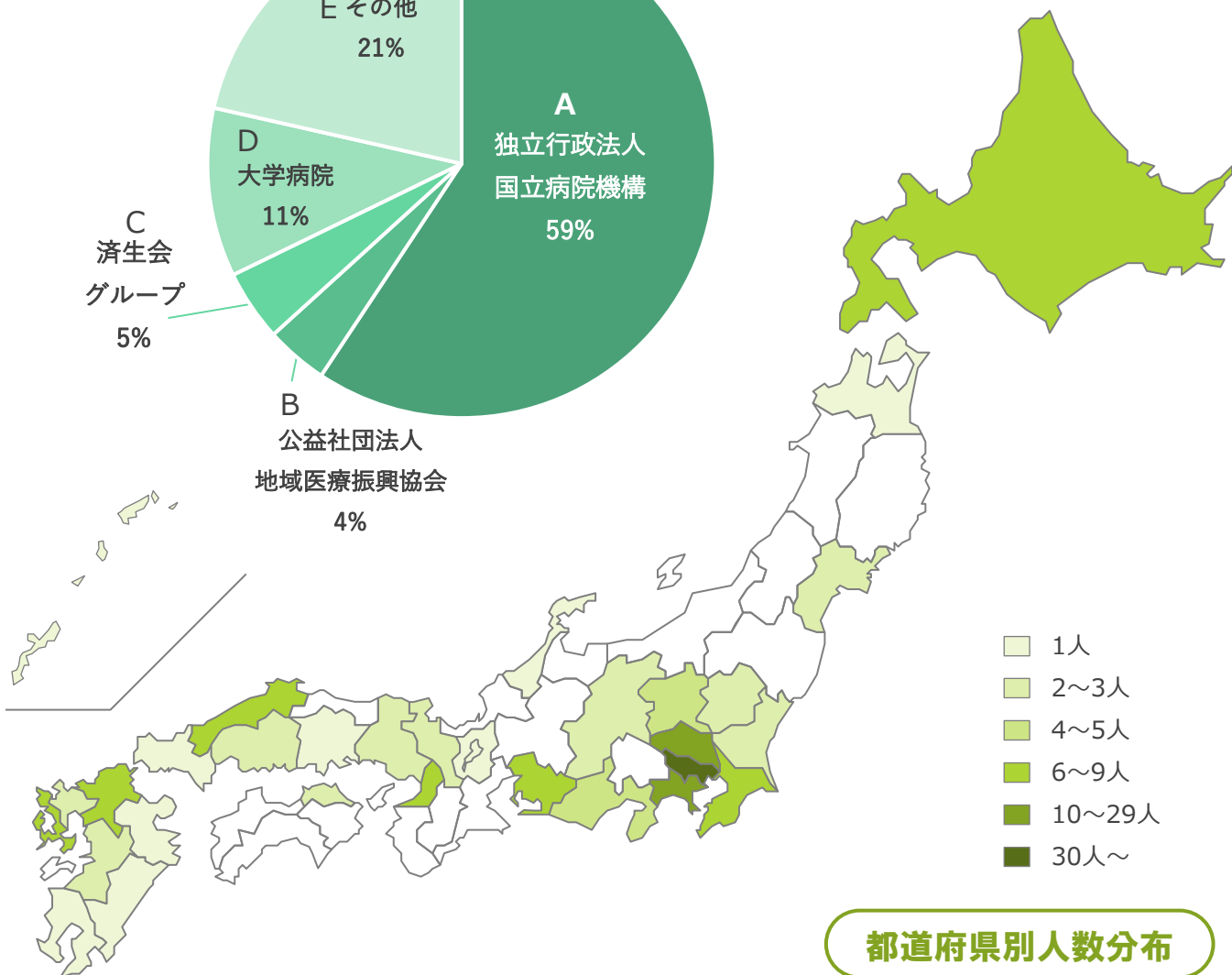
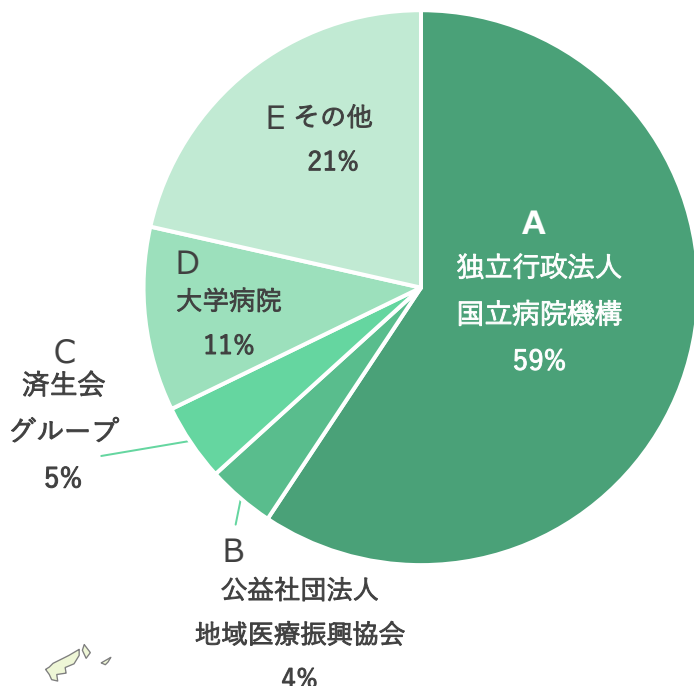
高度実践看護コースでは、独立行政法人国立病院機構と連携して、医学の知識と初期医療に関する実践力を備え、患者さんにタイムリーに診療を提供できる診療看護師（NP）を育成しています。平成22年度の開設から令和3年3月までに10期 183名の修了生を輩出し、その活躍の場は全国に広がっています。

本コースの修了生が複数名在籍している施設も増え、修了生は診療看護師（NP）として、患者さんはもちろんのこと、医療スタッフからの期待に応えて日々活躍しております。

<主な就職先>

- A 東京医療センター／名古屋医療センター
- B 東京ベイ・浦安市川医療センター／練馬光が丘病院
- C 済生会横浜市南部病院／東京都済生会中央病院
- D 東京女子医科大学東医療センター／順天堂大学医学部附属静岡病院
- E 川崎幸病院／松江赤十字病院 など

施設別 就業割合



都道府県別人数分布

診療看護師(NP)が活躍する現場から

1 中村 美希さん

東京都済生会中央病院
診療看護師 (NP)
(平成30年3月修了)



当院は創立102年を迎え、「済生の精神」の下、全職員が一致団結して患者中心の高度・良質な医療サービスを提供することをめざしています。

現在私は臨床研修室に所属し、総合診療内科・感染症内科で研修しています。指導医の先生方はとても熱心でNPにも研修医と同様に接してくれ、充実した指導を受けられます。私は主に専修医（後期研修医）と行動を共にし、新規入院患者の問診から身体診察、必要な検査の選択等を行い、総合的な視点から患者さんのもつ問題点を整理・抽出し、論理的に臨床推論が展開できるようトレーニングを積んでいます。また、点滴や内服の処方、入院時指示や検査オーダー、他へのコンサルテーション依頼は、代行入力として実施しています。

研修プログラムは1年を予定しており、総合診療内科・感染症内科、神経内科・脳神経外科で行う予定です。当院の研修は、ローテート科の途中変更も可能で、相談しながら決められるのも大きな魅力の一つです。

診療看護師として私は現場の看護師とのコミュニケーションを重視し、電子カルテ上で指示を出すだけでなく、口頭で指示を出した理由を付け加え、診療と看護が円滑に進むように心がけています。その中で現場の看護師は「医学的な側面からの働きかけを望み、タイムリーな対応がモチベーション向上にも繋がるのではないかと」の示唆が得られました。

今後、NPがジェネラリストとして能力を発揮し、チーム医療のキーパーソンとして多職種と協働しながらベッドサイドの医療レベルを上げる働きをすることが重要な鍵であると実感しました。ベッドサイドの医療レベルが上がることで医療の質が向上し、安心安全の医療提供に繋がれば、患者はその医療を受けることで満足度の向上にも繋がると考えます。

2 鈴木 嵩さん

東京女子医科大学
東医療センター
救急医療科
(平成29年3月修了)



東京女子医科大学東医療センターの救命センターは、人口約134万人の東京都東北部医療圏（荒川区・足立区・葛飾区）における唯一の救命救急センターとして、同地域の三次救急を担っています。同センターのホットラインでの要請件数は年間約2,000件以上、しかし、三次救急搬送者数は2015年度で約1,660件と、すべての要請には応需できていない状況である。現在、常勤医が9名と、医師不足が応需を難しくしていることは否めない。また、初期研修医は2~3名と搬送数に比して決して多くはなく、夜勤帯に研修医がいない日もある状況である。医師不足を補完する対策として同センターが力を入れて取り組んでいるのが、他職種によるチーム医療である。2017年から診療看護師としてチームに加わり、現在、救命救急センターで2年間の卒業研修を行っている。

ERや初療室でのファーストタッチ、救命フロア内で診療の補助を行っていることや、症状や治療方針を患者に分かりやすい言葉で説明することや、患者や看護師から要望を聞き出して医師に伝えること、厳しい状況下での不安を理解し安心感を与えることなども積極的に行っている。診療録の記載や入院に必要な書類の代行入力、各種検査や点滴オーダーを行い、円滑に医療が提供できるように務めている。

大学病院である同院では教育・育成は責務であるが、朝夕のカンファレンスで研修医や救命士とディスカッションしたり、初療室での手技の直接指導など、多職種間で役割を分担してサポートしている。

今後は初療室や集中治療に携わる看護師の教育にも貢献し、研究発表や活動報告を積極的に行い、NPの実績と認知度を高めて行くことも課題である。

3 笹島 絵理子さん

国立病院機構
名古屋医療センター
診療看護師 (JNP)
(平成29年3月修了)



私は初めて関東圏を離れ、2017年4月に研修体制の整った当院に入職しました。今は当院独自の診療看護師研修プログラム（2年間）に沿って経験を積んでいます。

当院の診療看護師の活動は、所属した診療科のニーズに応じて様々です。現在、先輩診療看護師の活動を見聞する中で、技のコツを掴むことは勿論、家族や医師との関わり方、看護師を含む多職種の診療看護師への期待や要望、そして診療看護師としての姿勢および態度を学ばせていただいています。また、これまでの看護経験を活かしたケアや身体診察を先輩診療看護師とともに実践し、検査等の解釈に対するディスカッションも積極的に行っています。その他、微力ながらも看護の質の向上に貢献できるよう、看護部の現任教育にも尽力しています。

2年間の研修期間を十分に活用し、今後、当院における診療看護師の役割を見出し、期待される役割を果たしていきたいと思えます。

【名古屋医療センター診療看護師研修プログラム】

研修期間：2年間
研修場所：総合内科、循環器内科、外科、ER、ICU等
※2年目は所属する診療科を見据えた本人の希望を取り入れる

研修スケジュールの一例

1年目の研修

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合内科	循環器内科	他部門	外科	集中治療科							

2年目の研修

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
集中治療科	脳外科	総合内科	他部門	外科							



東京医療保健大学大学院 高度実践看護コース（修士課程）

国立病院機構キャンパス（東急田園都市線駒沢大学駅徒歩10分）〒152-8558東京都目黒区東が丘2-5-1
TEL：03-5779-5031 URL：http://www.thcu.ac.jp/ E-mail：higashigaoka-po@thcu.ac.jp